



<きめられた場所に置く>

物があるものに入れる、物を決まった場所に合わせる、ということができるようになることは、その後の成長に欠かせない行為になります。くつをくつ箱に入れることや、おもちゃをおもちゃ箱に入れるような行為をさせて、療育では「定位的調整」(聞きなれない)と呼びます。この定位的調整は、こうした整頓の場面だけではなく、おなべに蓋を合わせるままごとあそびや(道具的)、積み木積み(操作的)、「ちょうだい」と差し出した掌にもものをおいてくれる社会的行為としてあらわれます。大切なのは、こうした定位的調整の奥で動き始めた心のうごきです。この頃のこどもの心には、同時に2つのイメージ(2つの世界)が同居します。「くつと靴箱」あるいは「おもちゃと入れ物」など、2つを同時に心に描けるようになったこどもは、歯ブラシを見ると歯磨きを思い、絵と実物とがつながるなど、関連づけやマッチングができるようになります。それまでは、「くつ」は履くこと以外の何物でもなく、気にいらぬものは放る、泣くというように、一度に1つのイメージで心がいっぱいなのです。そして、この時期に達したこどもは、2つをイメージする力を介助者と共有する(「三項関係」)作業を通して3つ目の世界—ことばの世界—の扉を開きます。



集合活動

2月の活動のようす



良く聴いて

良く見て

上手にできて

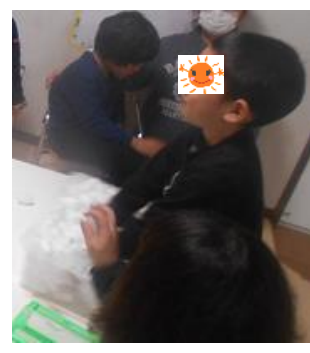


リバーシゲーム

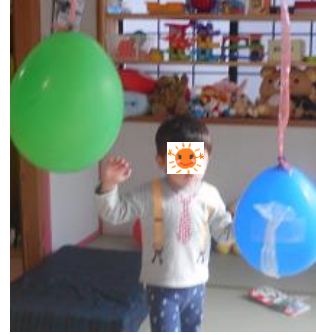
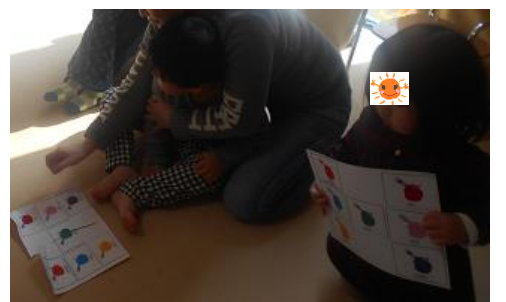


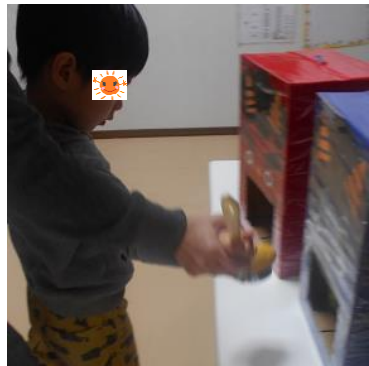
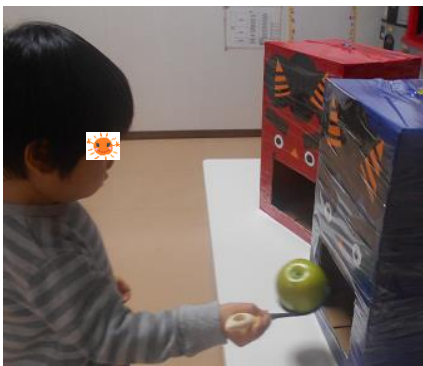
宝物...♪

たからさがしゲーム



えいごのうたあそび





せいさく

せつぶんゲーム



せんせい



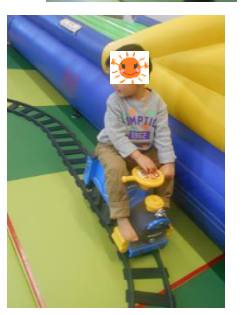
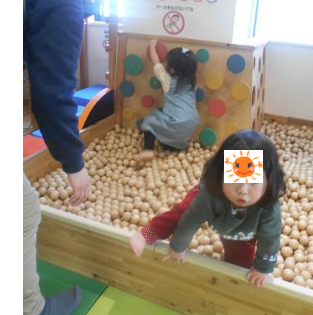
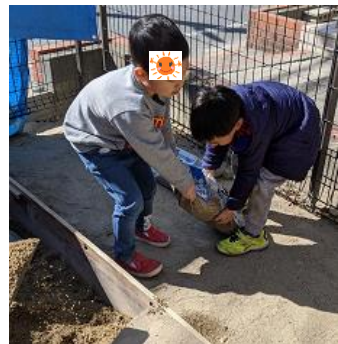
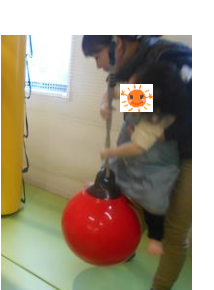
なかよし



お口のたいそう



つよまぐさ、うまむかひごまぐさ



すなぼ ↑

公園 ↓



☆3月のできごと☆

一人のお友達が「工作がしたい!」というので大きな段ボールを準備しました。すると、周りのお友達もあつまって「ここに大きな穴あけてモグラたたきにしよう!」「電車もいい」など、友達や職員と話し合いながら作りました☆ それを見ていた子どもたちが、テープやペンで飾りつけをしたり電車ごっこに入れてもらっていました。子どもたちの「やってみたい気持ち」を共同につなぎ、遊びの中でルールや人との関わり合いを育てていきたいと思ひます☆

4月の課題活動



- ・製作あそび…身近な素材等を使って製作する
手先を使って上手に遊びましょう
 - ・感触あそび…スライムや新聞などの素材の感触を楽しむ
遊びの中で触覚を刺激する
 - ・自由あそび…好きな遊びを見つけ、保育者や友達と あそびましょう
- ♡お願い…新しい環境への不安から落ち着かない時期です。何か気になることがあれば、職員にお伝えください。
♡もちもの全てに必ずご記名をお願いします。(服類、タオル、靴下、おむつ入れ等)